

# 双ヶ丘中だより



京都市立双ヶ丘中学校

4/7

第2号

学校教育目標 「自らの未来を切り拓く、心豊かな生徒を育成する」

## 平成29年度 第69回入学式

4月7日(金)に、多くのご来賓の皆様や保護者の皆様にご臨席いただき、第69回入学式を挙行しました。157名の新入生が、桜が満開の中、新しい制服に身を通し校門をくぐりました。新入生の表情は、期待と不安が交錯しているように見えました。式は、厳粛な雰囲気の中で進みました。

式辞で、新入生に二つのことをお願いしました。一つ目は、「出会いを大切にしてほしい」ということです。皆さんには、御室・宇多野・花園の三小学校を中心にいくつかの小学校から入学されました。初めて出会う仲間もたくさんいます。しかし、今日から全員が双ヶ丘中学校の生徒です。出会いを大切に、楽しいときやうれしいときには、自分のことのように共に喜んでくれる、また悲しいときや困難にあたったときには共に悩み、苦しみを分かちあってくれる、そのような真の友をつくってください。そのためには、仲間を大切にし、仲間を思いやるやさしい気持ちと間違いや誤りをしたときは、素直に正していける勇気をもってください。

二つ目は、「継続は力なり」ということです。ヨーロッパのスイスにアイガーというヨーロッパアルプスを代表する山があります。その登山ルートの一つであるアイガー北壁は、垂直に切り立つ一八〇〇メートルの岩壁で、最難関のルートです。一九三四年から一九五八年までに二五回の登頂が試されました。そのうち一三回しか登頂に成功していません。つまり半分は、失敗に終わっているのです。そのアイガー北壁を二一歳という若さで登頂に成功した辰野 勇という登山家がインタビューで「なぜ、そんな断崖絶壁を登ることができるのですか」という質問に対して、辰野さんは、「一メートルの壁なら簡単に登れるでしょう。それを一八〇〇回繰り返すだけです。だから登りたいという意志があれば登れるのです。でも最初から、無理だと思う人には登れません。」と答えました。この答えから辰野さんが大きな目標を達成するために努力を積み重ねてきたことや登り切るんだという強い意志を持っていたことがわかります。努力をこつこつ積み重ねることが成功の鍵なのです。「努力」を積み重ねることは決して楽なことではありませんが、小さな努力を地道に積み重ねた後に成功が待っているのです。皆さんもいろいろな場面で小さな努力を続けてくれることを願っています。

## 就学援助制度について

京都市では、お子達が市立小・中学校へ通学するにあたり、経済的な理由により、お困りの保護者に対して、学用品費や給食費などを援助する就学援助制度を設けています。

申し込みの手続きやご相談・ご質問がある方は、学校までお申し出ください。



本校では、生徒たちが活躍している様子やお名前などを学校だよりや学年だよりで掲載する予定です。また、随時ホームページでも紹介していくこうと考えています。保護者の皆様のご理解をお願い申し上げます。